

第2回宮古地区専門高等学校（仮称）統合検討委員会 議事録

期 日 平成30年7月20日（金）
時 間 午後3時00分～午後4時20分
会 場 宮古商業高等学校 会議室

1 開会（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

2 報告

（宮古商業高校校長 高橋正浩）

- ・ 宮古地区専門高等学校（仮称）統合検討委員会の小委員会は、参考資料1の名簿のとおり、統合課題検討小委員会及び教育内容検討小委員会を委嘱した。

（宮古商業高校 鈴木卓）

- ・ 統合課題検討小委員会及び教育内容検討小委員会は合同で第1回を平成30年7月3日（火）宮古商業高校において、第2回を平成30年7月10日（火）宮古工業高校において実施した。
- ・ 小委員会の会議内容報告は、協議内容と重なるため割愛する。

3 協議（議長 宮古商業高校校長 高橋正浩）

(1) 宮古地区専門高等学校（仮称）校舎制の形態について

（宮古商業高校副校長 鈴木卓）

- ・ 独立校舎制と実習移動型について、それぞれのメリット、デメリット等を説明。
- ・ 独立校舎制で進めていくことを提案。案を承認。

<主な質疑等>

- ・ （寺崎委員）独立校舎制とする場合、部活動の際に生徒は移動することになるのか。

<回答>（宮商校長）部活動によって移動する部もあれば、移動しない部もあるが、どちらかの校舎で活動することとなる。

- ・ 参考資料2より、統合における学級数の推移について説明。
- ・ 宮古商業高校、宮古工業高校ともに、単独では統合後の生徒を全て受け入れる教室数がない。
- ・ （小田代委員）校舎制の形態は、統合検討委員会で決定すると半永久的に変更できないのか。

<回答>（高校改革課長）校舎制の形態については、統合検討委員会でいったん決定はするが、状況に応じて見直すこともあり得る。ただし、見直す場合にも拙速とならないよう一定の準備期間を要すると考えられる。また、将来的には、生徒減少により、また宮古地区で統合を検討する時期が来ると思われるので、その時に新校舎の建築についても含め検討していかなければならない。

- ・ （伊藤聡委員）独立校舎制では統合による教育効果が十分に上がらないのではないのかということを踏まえ、宮古工業と宮古商業の2校の統合で新校舎を建てることはできないのか。

<回答>（高校改革課長）2校の統合においてすぐに新校舎を建てることは難しい。宮古工業高校も宮古商業高校も、現在使用できる校舎や設備が整備されており、その有効活用を考えていかなければならない。将来的に宮古水産高校も含め統合となる場合には、校舎の建て替え時期にあわせ新校舎を建てるということは考えられる。

- ・ （高校改革担当主任指導主事）校舎制は、宮古工業高校と宮古商業高校の両方の校舎を有

効活用するというものであるが、なぜ独立校舎制を選んだのかということについて、事務局からもう少し詳しく説明してもらいたい。

<回答> (宮商副校長) 統合及び校舎制導入検討ワーキンググループの中では、実習移動型であれば授業時間帯で生徒が移動することになりロスタイムが生じる。また、宮古工業高校の実習用の設備等を移動することが難しいため、それぞれの校舎で授業を行う独立校舎制が良いという意見が大勢を占めた。

・ (山崎委員) 統合して独立校舎制とした場合、統合により得られる学習効果はあるのか。

<回答> (高校改革担当主任指導主事) 授業そのものは、それぞれの専門科目を履修することになるが、課題研究の成果発表会を合同で行うことで商業と工業のお互いの専門の学習を理解することで刺激を受けることが考えられる。また、行事等を合同で行うことで一体感を高め、教育効果が上がると思われる。今後、検討を進めながら、教育効果を踏まえ合同実施が望ましいものが選定されていくと思われる。行事等の合同実施については、統合スタートの時点で全て決めてしまうだけではなく、今後運営しながら変更していくことも考えられる。

(2) 宮古地区専門高等学校 (仮称) 統合形態について

(宮古工業高校副校長 藤原徳久)

- ・ 完全統合と年次統合について、参考資料2をもとにそれぞれのメリット、デメリット等を説明。
- ・ 完全統合で進めていくことを提案。案を承認。

<主な質疑等>

・ (伊藤聡委員) 年次統合の場合、校長が2人いる時期があるとの説明があったがそれはどういうことなのか。

<回答> (高校改革担当主任指導主事) 千厩高校と藤沢高校の例、高田高校と広田水産高校の例、釜石商工高校の例などをあげ補足説明。

(宮商校長)

・ 年次統合の場合は、最後まで校名を残したいという思いがあるが、学校が無くなっていくイメージが感じられる。一方で完全統合の場合は、それぞれの高校がそのまま続いていくようなイメージが感じられる。

・ (山崎委員) 完全統合の場合、入学式や卒業式は合同で一つの会場で行うことになるのか。

<回答> (宮商校長) 完全統合の場合、一度に学校が一つになるので、入学式や卒業式は合同で一度だけ行うこととなる。

・ (寺崎委員) 統合形態についての小委員会での意見はどうなっているか。

<回答> (宮工副校長) 小委員会では、生徒たちにとって完全統合の方がよいだらうという意見になった。

・ (伊藤聡委員) 統合形態について各校の生徒にアンケートを取ったのか。

<回答> (宮工副校長) 生徒にアンケートを取ったわけではない。

(3) 宮古地区専門高等学校 (仮称) 設置学科 (小学科) について

① 商業高校3学科について

(宮古商業高校副校長 鈴木卓)

- ・ 各小学科の設置の歴史的な背景や過去の実績 (募集定員に対する入学者の状況なども踏ま

えて)、地域のニーズ・今後の社会情勢など多方面に渡る視点から閉科・統合・新設について小学科主任会議、商業科会議を行い、現在検討中である。

② 工業高校2学科について

(宮古工業高校校長 小原貴人)

- ・ 現在ある3学科の学習内容を可能な限り維持したいということで「建築設備科」の「設備」については「機械」と統合し、「電気電子科」の学習の中にも「建築設備」で学んできた内容を取り入れる方向性について職員会議で承認を得ている。学科名、カリキュラムの詳細についてはこれから検討していく。

<主な質疑等>

- ・ (小田代委員) 専門学科を統合することで専門科目の単位未修得などの問題はないのか。

<回答> (宮工校長) 類似性の高い科目を学ばせつつ、選択科目などで補っていく予定である。選択科目が増えるということも考えられ、工業の専門教員の確保が課題となる。詳しいことはこれから検討していく。

- ・ (伊藤聡委員) 学科改編により学科数が減ることにより教員数も減ると思うが、指導上問題はなしなのか。

<回答> (高校改革課長) 今までも学級減等で学科が減った例はあり、その際は選択科目を開設するなどできる限り希望する分野の学習を履修できるように配慮されてきた。教員数については、普通教科の教員が移動し、両方の校舎で授業を行うことで、不足する専門教科の教員数を確保することもできると思われる。

(4) 校名・制服について

①校名について

(宮古工業高校副校長 藤原徳久)

- ・ 校名を公募するか検討委員会で決定するか等の選定方法について説明。
- ・ 公募を提案。案を承認。

<補足説明>

(高校改革課長) 過去には、検討委員会で校名を絞り込まず、複数の校名案を県教育委員会に報告し、県教育委員会で検討し決定した例がある。また、校名に関しては県の条例改正の手続きが必要であるため、正式には県議会で決定することになる。

(宮工副校長) 公募したものの中から、小委員会で幾つか候補を絞り、さらに統合検討委員会で検討していただく予定である。

<主な質疑等>

- ・ (山崎委員) 校名については事務局案の通り公募でいいと思う。
- ・ (寺崎委員) 校名を公募するメリットは何か。

<回答> (宮工副校長) 公募することにより、様々な意見を得ることができる。ただし、短期間で決定しなければならないため、公募期間が短くなることが想定され、公募の告知の仕方に課題があると思われる。

- ・ (山崎委員) 公募の期間が短くないか。

<回答> (宮工副校長) 次回の統合検討委員会に校名の候補を提案したいと考えており、短期間となってしまいが、提案した日程としたい。

②制服について

(宮古工業高校副校長 藤原徳久)

- ・ 現在の両校の制服の写真をもとに説明。
- ・ 宮古商業高校の制服を基本に検討を進めると提案。案を承認。

<主な質疑等>

- ・ (寺崎委員) 一般的な生徒の場合、制服は3年間を通して1着を着用するのか。また、経済的な負担はどの程度か。

<回答> (宮工副校長) ほとんどの生徒は入学時に大きめの制服を作り、それを3年間着用する。制服1着あたりの単価は高価でもある。

- ・ (伊藤聡委員) 制服について公募してはどうか。公募することで、多くの人に宮古地区での2校の統合に興味を持ってもらえるのではないか。
- ・ (寺崎委員) 公募をするということは、現在の制服を使用するのではなく、替えなければならない方向になるのではないか。
- ・ (山崎委員) 在校生のことを考えれば、事務局の提案を支持したい。
- ・ (小田代委員) 男子生徒はボタンやバッジを付け替えるのみで対応でき、工業高校には女子生徒が少ないので事務局提案を支持したい。

(5) 部活動について

①統合時に設置する部活動について

(宮古商業高校副校長 鈴木卓)

- ・ 現在、両校に設置されている部活動や部員数等を参考資料4をもとに説明。
- ・ 統合時に設置する部活動については、両校の既設の部活動をそのまま維持し、現在設置している全ての部活動を継続することを基本として検討していくことを提案。案を承認。

②活動場所について

(宮古商業高校副校長 鈴木卓)

- ・ 原則的には同一種目について、男女とも同じ場所で活動すると提案。
- ・ 移動手段の確保や宮古工業高校には女子更衣室、女子トイレが少ないなどの課題があることから、活動場所については再度検討することを確認。

<主な質疑等>

- ・ (寺崎委員) 野球部の活動場所は宮古工業高校のグラウンドであるが、ナイター設備があるからなのか。

<回答> (宮商副校長) 宮古商業高校のグラウンドは野球部の練習場所としては狭いからである。

- ・ (小田代委員) 男女とも同一種目は同じ場所で活動する場合、使われなくなる施設が生じることはないか。

<回答> (宮商副校長) 男女とも同一種目は同じ場所で活動するというのは原則的なことであり、移動手段等の問題もあるため、活動場所については今後も検討していく。

(宮商校長) 部活動においては一体感を持たせたいということで、同一種目は同じ場所という方針が基本であるが、生徒にとって良い環境で良い活動ができることが最善である。

(宮商副校長) 小委員会では、専門性の高い顧問が指導することが良い環境で良い活動ができると判断し、同一場所での活動が良いという結論に至った。ただし、全ての部活動にそれがあてはまるかという点と難しいと思われる。

③移動方法について

(宮古商業高校副校長 鈴木卓)

・生徒の移動については校舎間のバス利用を考えている。ただし、宮古商業高校には大型バスが駐車できるスペースが狭く、バス運行には課題もあるため、再度検討を確認。

<主な質疑等>

- ・(小田代委員) 部活動で生徒がバスで移動することについては決定なのか。

<回答> (宮商校長) 生徒の移動方法等についても、これから検討していただきたい。

(高校改革課長) 現在提案されている部活動の活動場所については原則であり、生徒移動の負担や一体感などを考慮した上で、バス移動の予算を試算しながら、活動場所について更に検討していただきたい。

(宮商校長) 活動場所の検討においては、例えば、ソフトボールの活動場所は現在宮古商業高校にあるが、専門的な指導者が宮古工業高校にいるというような場合であれば、生徒が移動するよりも顧問が移動した方がより現実的であるということも考えられる。

- ・(小田代委員) バス移動時間についても課題があるのではないかと。

<回答> (宮商校長) 活動場所と移動方法については様々な課題があるため、継続して検討する必要がある。

④その他

- ・(宮商副校長) ソフトテニス部に関して男女ともに部員が多く活動場所が足りない、コートの水はけが悪いため他の施設を利用しているなどの課題が挙げられている。
- ・(寺崎委員) 部員が多くて施設が足りない場合、他校ではどのように工夫しているのか例を挙げて欲しい。

<回答> (宮商副校長) 盛岡市内の多くの高校では校内に十分な既存の施設がある。また、不足する場合、生徒が移動し公共の施設などを利用している。

- ・(伊藤聡委員) 生徒が移動し他の施設を利用することも考えられるが、コートの水はけが悪いのであれば、改修するなど設備の充実を検討すべきではないかと。
- ・(宮商校長) 今後もこの件も含めて検討する必要がある。

4 その他

特になし

※午後4時15分終了